ラジアタ松

# 実需伸びずチリ材価格停滞

## 中国向けNZ丸太は上げ基調

チリ産ラジアタ松製材品の日本向け輸出量は、引き続き減少傾向にある。一方で日本国内の需要は盛り上がりに欠ける。市中在庫は潤沢とはいえないが、5月以降、市場の停滞感が拭えず、荷動きは鈍い。ニュージーランド（NZ）産ラジアタ松は、中国向け丸太の価格が上昇。中国市場の好調が続いており、引き合いは強い。

チリ産ラジアタ松製材品は、大手サプライヤーであるアラウコの6月配船（3番船）の数量が約15%減少し、価格もやや値上げとなった。同船の日本入港は、7月中旬ごろと見込まれている。

問屋側は仕入れコスト分を売り値に転嫁したいが、恩恵どおりに値上げは浸透していない。「仕入れ値は高く、売り値も6月に上げたかった」というのが問屋筋の本音。しかし実際の上げ幅は、西日本では2000円（立方㍍）、東日本では1000円（同）程度にとどまっており、7月の値上げに焦点を当てている。

今後、アラウコの7月配船の4番船及び8月配船の5番船は、産地出港から日本入港までの期間がそれぞれ約1カ月と、通常より短くなる見込み。入港間隔が狭まるため供給量は絞る予定だが、市況によっては一時的な港頭在庫の増加も考えられる。

NZ産ラジアタ松丸太は、中国向け価格が135~137㌦（C&F、立方㍍）と高値好調の主な要因は、中国国内の森林伐採規制の影響と市場の活発さと考えられており、中国の港頭在庫は400万立方㍍台を維持しているが、出荷もおう盛だ。中国の需要継続を受け、NZ側の林産業者の輸出意欲も高い。

中国市場の先行きは予想しにくいが、現状では景気が極端に鈍る要因は見当たらない。

中国だけでなく、韓国からの引き合いも強く、今後は日本向け丸太の価格にも影響が出てくると見られる。国内需要の回復が遅れると需要家の利益率を圧迫することになる。

# エステック処理機導入へ

## 出雲木材市場

## 地域材の付加価値化目指す

島根県産木材製品の販売に力を注ぐ出雲木材市場（島根県出雲市、三吉庸善社長）は、木材を窒素加熱処理する「エステックウッド」の製造装置を導入する。10月に設置工事に掛かり、12月の稼働を目指す。

自社加工で材の耐久性・安定性を高める。写真は三吉社長

同社は、地域材活用の一環として江間忠ウッドベース（愛知県蒲郡市）が保有する窒素加熱処理設備へ杉、桧、松などの材料を運んで処理したエステックウッドを住宅や商業施設の外構材として「E—WOOD（イーウッド）」の名称で2014年ごろから販売している。

エステックウッドは熱処理によって耐久性と形状の安定性を高めた改質木材。化学薬品を使わないため、環境にやさしく廃棄も容易という利点がある。

出雲木材市場は昨年、広島市内の商業施設にまとまった量を販売するなど市場開拓を進めてきた。このほど一定量の販売にめどが付いたため自社での製造に踏み切ることとなった。

処理設備は製品課の倉庫の一角に設置し、運用も同社が行う。直径約2㍍、長さ4・5㍍の真空に耐える円筒状の釜で、木材の容量は約5立方㍍。

エステックウッドの製造装置は江間忠ウッドベース内の5基のみで、それ以外での導入は出雲木材市場が初めて。納期の関係で互いの製造能力を超えるものは相互に製造委託して融通を利かせる。

中国地方での販売は出雲木材市場が行い、その他の地域では江間忠木材が販売する。

エステック処理設備導入の事業費は約9232万円。16年度の島根県森林整備加速化・林業再生事業に採択され、補助を受ける。

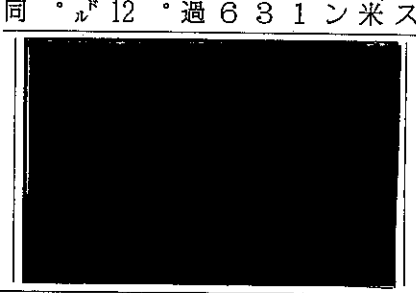
エステックウッドの販売に当初から携わる西本博光常務は「アオの入った松など評価の低い材を使う技術として取り組んだ。中国地方での連携を視野に入れながら設備を活用していきたい」と話し、日高林産（邑智郡）が製造する「ECO3パネル」への応用など幅広い活用を目指している。

## 米松グリン2×4材価格続伸

米国市場

好調な米国市場では米松2×4グリンが12㌳で405㌦（スタンダード&ベター、FOB製材工場、1000BM＝ノミナル）、同16㌳で460㌦（同）と2005年以降で最高値を更新した。ウエスタンレッドシダー（米杉）も2×4グリン（デッキグレード）12㌳で265㌦、同KD1375㌦、4分の5×6㌅KD1830㌦と過去最高値を更新した。

米松2×4グリン12㌳は17年初比で65㌦高、同16㌳も65㌦高。米杉2×4グリンは同280㌦高となっている。日本向け米加産米松KD製材は45㍉タルキを軸に入荷がタイトになっており、今後の米国市場価格動向の影響が注目される。米杉製材については過去最高値に張り付いたままで、日本向け自体が一段と難しい状況だ。

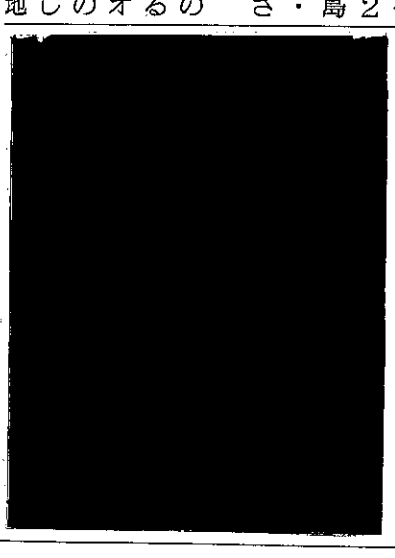


## 林産物輸出の事例集を作成

林野庁

林野庁は16日、「林産物の輸出取組事例集　日本産木材を世界へ」をまとめ、ホームページ上で公開した。

農林水産省では、農林水産物の輸出額1兆円を目標に輸出拡大に取り組んでいる。

林産物輸出額は2016年に274億円と増加しているものの、品目では丸太が多く、輸出先に偏りがあることが課題になっている。耐久性に優れた高温処理木材や高性能木製窓など、輸出拡大に向けて工夫した各地の取り組みも紹介されている。

事例集では、住宅用部材、高付加価値製品、丸太、特用林産物などの分野ごとに加え、都道府県の取り組みも掲載している。